

## 道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2013年1月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、1月23日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「横這い圏内で推移している」としました。この基調判断は4か月連続となります。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は持ち直しの動きが鈍化しています。11月の大型店売上高は月後半にかけて悪天候の日が続き客足が鈍ったことから弱めの動きとなりました。自動車販売はエコカー補助金終了後、概ね横這い圏内の動きが続いています。観光はインバウンド観光客の増加等から緩やかに持ち直しています。公共投資は下げ止まりつつあります。設備投資は下げ止まっています。住宅投資は、持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は幾分弱めの動きとなっています。

昨年秋以降、わが国の景気は海外経済の減速、日中関係およびエコカー補助金終了の影響から減速感を強め、足もと一段と弱含んでいます。ただし、これらの悪影響は主に輸出関連製造業に及ぶものであり、内需は相対的には底堅く推移しています。道北地域の景気は、水準的には厳しい状況が続いているものの、方向性（横這い圏内）で見ると、内需のウエイトが高いことから全国（弱含み）に比較し相対的に健闘した動きとなっています。ごく足もとでは、今般の大型補正予算の成立等により道北地域の企業マインドの一部に改善の動きがみられる一方、所得環境が引続き厳しい状況にある中、北海道で支出ウエイトの高い灯油・ガソリン価格が上昇しています。企業マインドの改善という景気の「気」の部分の改善が、補正予算の執行その他の施策を通じ、今後実体経済の改善につながっていくかどうか、今後の動向を注意深く注視していきたいと思えます。

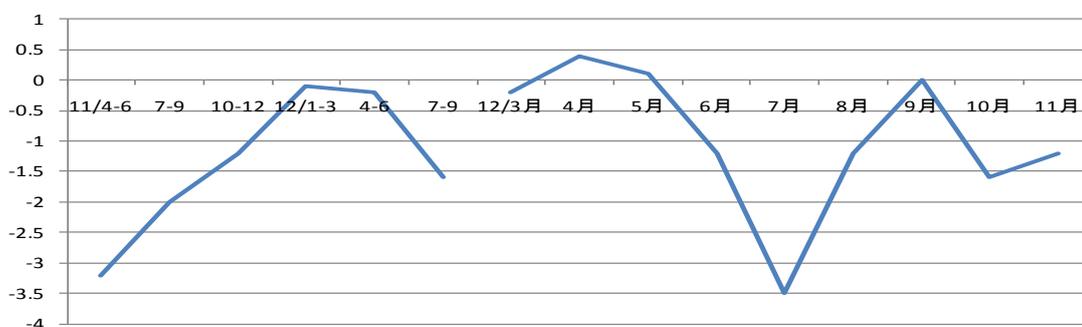
主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

11月の大型店売上高は、降雪の影響で冬物（冬物衣料や除雪器具、長靴など）に一部動意がみられたものの、月後半にかけて悪天候の日が続き客足が鈍ったことが響き、△1.2%と、2か月連続で減少しました。

【道北地域の大型店売上高推移】

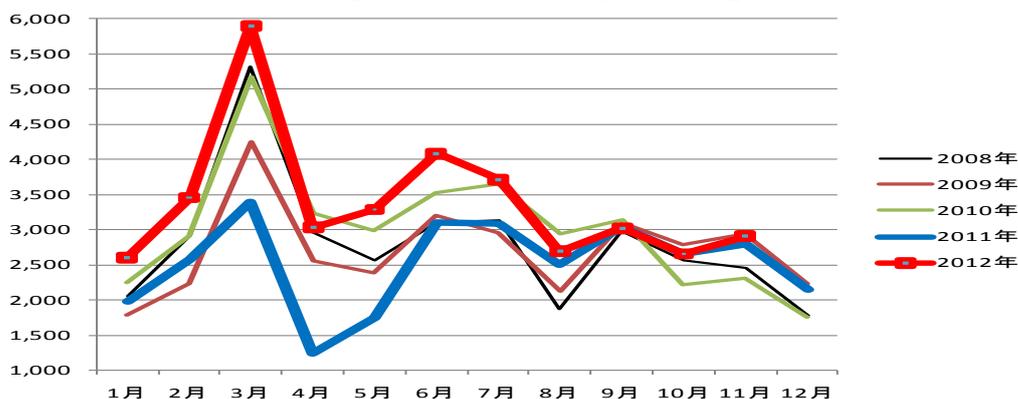
前年比・%



新車登録台数はエコカー補助金終了（9月21日交付申請受付分で終了）後、概ね横這い圏内の動きとなっています。9月（△0.5%）、10月（△0.1%）と前年比微減の後、11月は+4.3%と微増となりました。政策効果は剥落しましたが、軽乗用車（11月は+6.5%）や低燃費車人気が販売を下支えしています。

【道北地域の新車登録台数推移】

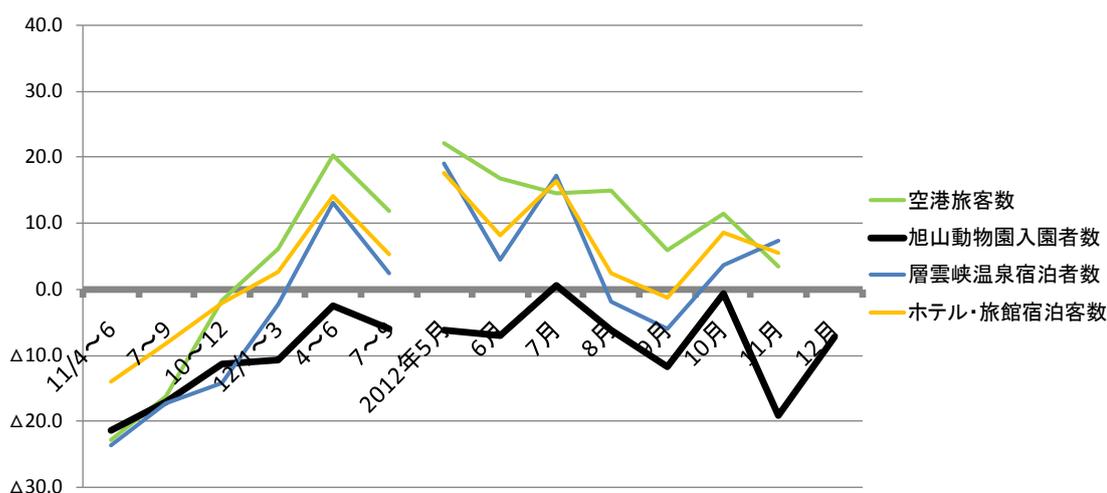
台



観光は2011年4～6月を底に緩やかに持ち直しています。9月に一旦紅葉の時期の遅れもあって持ち直しのテンポが鈍化しましたが、10月、11月は前年を上回る指標が多くなっています。こうした中、旭山動物園は減少傾向が続いていますが、減少幅は一頃に比べ小幅化しています（2010年度△16.3%→2011年度△16.4%→2012/4～12月△4.8%）。なお、11月の大幅減少は悪天候（11月18日より冬期開園。開園期間中の一日当たりの平均日照時間：1.5時間）によるものです。

【道北地域の観光動向】

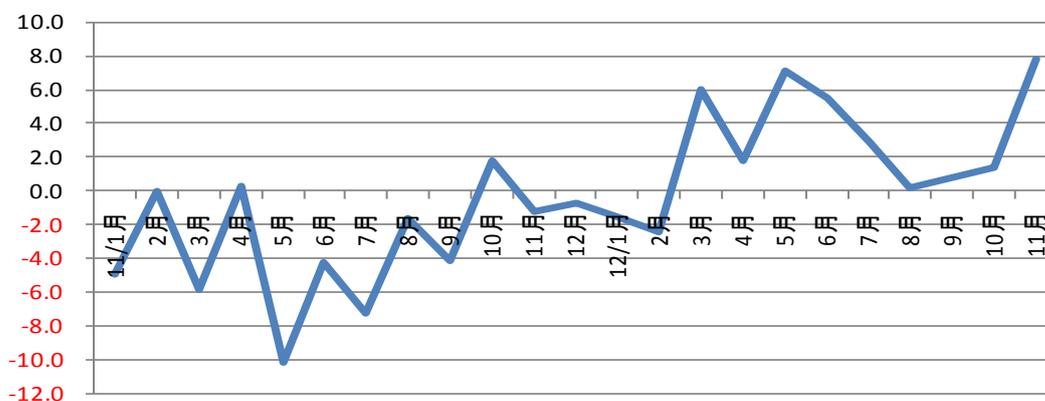
前年比・%



旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差推移をみると、下図の通り、3月以降、震災のあった前年を上回っています。改善幅は8月に一旦ゼロ近傍まで縮小した後、9月以

降再び前年差を拡大させました。11月についても、悪天候による旭山動物園の入園者数の大幅減少という悪材料があったにもかかわらず、前年差は+7.8%と大幅に改善しました。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前年差推移】 %ポイント



観光客別にみると、インバウンド観光客は中国以外のアジア（台湾、マレーシア、タイ等）を中心に増加が続いています。ちなみに、「層雲峡地区+富良野・美瑛地区」における11月の外国人宿泊者数は10月に引続き震災前の水準を上回っています。

【層雲峡地区および富良野・美瑛地区における外国人宿泊者数推移】

(単位 人)

	2010年11月	2011年11月	2012年11月
層雲峡地区	3,456	4,127	4,531
富良野・美瑛地区	548	110	208
合計	4,004	4,237	4,739

(上川総合振興局調べ)

また、国内（道内・道外）観光客についても、秋口に紅葉の時期の遅れ等から一時減少した後は、再び増加しています。もっとも、層雲峡地区も、富良野・美瑛地区も、まだ震災前の水準には戻っていません。また、道内他地域との比較では、他地域で道央道や道東道の整備進展に伴う効果がみられていること等から、やや割り負けているとの指摘が引続き聞かれました。

【層雲峡地区および富良野・美瑛地区における国内宿泊者数推移】

(単位 人)

	2010年11月	2011年11月	2012年11月
層雲峡地区	43,152	30,147	32,270
富良野・美瑛地区	14,690	11,849	13,254
合計	57,842	41,996	45,524

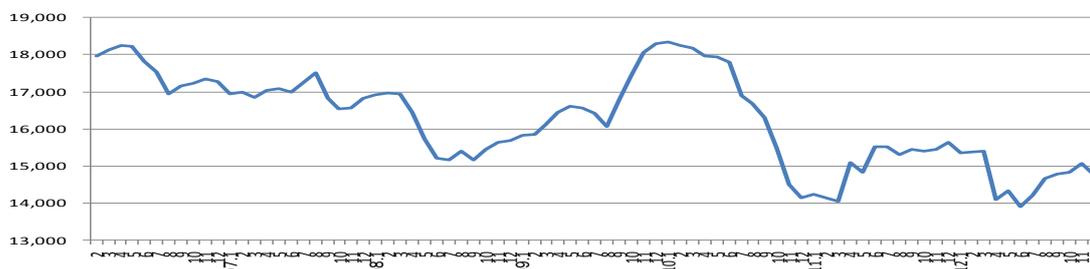
(上川総合振興局調べ)

年末年始の客室稼働状況については、日並びの良さもあってまずまずであった、との声が聞かれています。それ以降は明暗が分かれています。旭川地区や層雲峡地区において、旭川冬まつり開催（2/6～11日）にかけての予約は順調であるとの声も聞かれています。

なお、先行きのインバウンド観光客については、当面春節期間における動向がポイントとなりますが、中国以外の中国系アジア観光客の増加を期待する声が強いです。ただし、昨年（1月23日）と今年（2月10日）とで春節の日が異なること（インバウンド観光客について1月は前年比減少、2月は増加要因）、および旭川地区および層雲峡地区では冬まつりと春節の時期が重なること（満室期間が短くなる分、1-2月通算では減少要因）については留意が必要です。

公共投資は下げ止まりつつあります。11月の公共工事請負金額をみると、東川町地区交流センター建設（建築工事）（487百万円）以外は目立った案件がなく、3総合振興局合計では6か月振りに減少しました（△34.3%）。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通りです。補正予算の道北地域への割当額や執行時期は現段階では不明ですが、今後いずれかの時点でプラスに寄与してくる筋合いであり、その動向を注視しています。

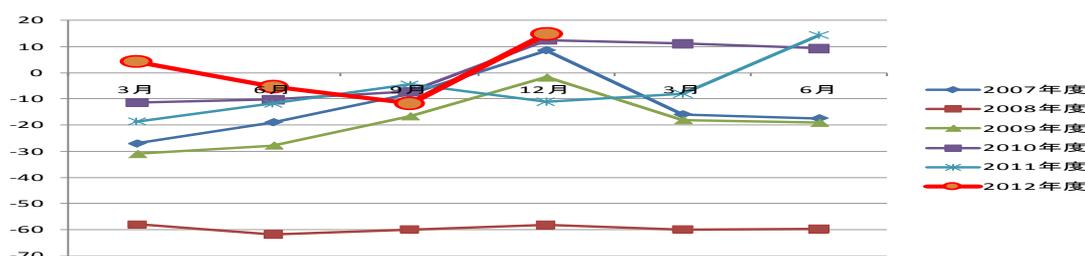
【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】 百万円



設備投資は、下げ止まっています。

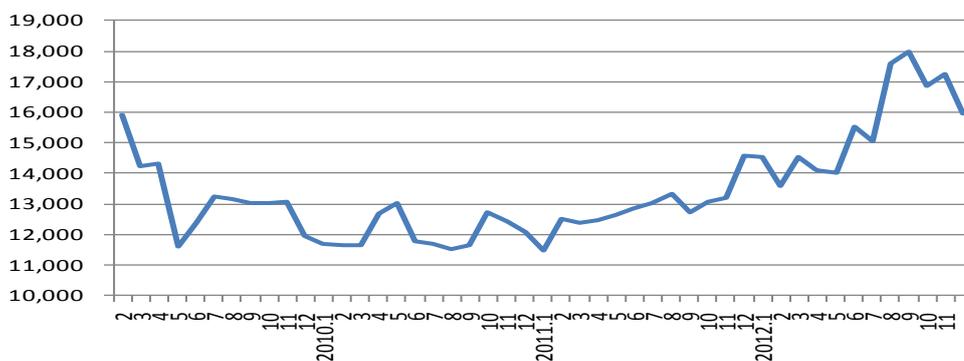
道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年12月調査）における2012年度の設備投資計画は9月調査比+29.9%上方修正され、増加（+14.8%）に転じました。9月調査で円高や欧州経済の減速に伴う製造業での下方修正を主因に下方修正となった後、12月調査では新規事業立ち上げ等のための投資に伴う製造業での上方修正から全体でも上方修正となりました。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】 前年比・%



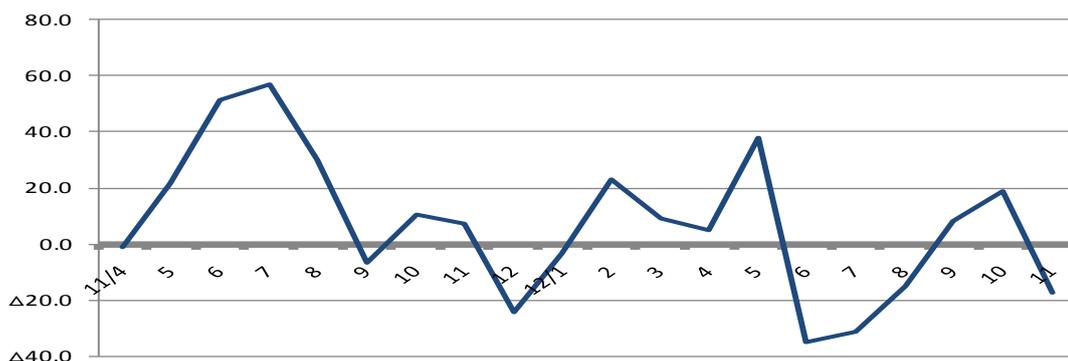
設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）については、11月は2か月振りに減少しました。振れを均すために後方12か月移動平均でみると、下図の通り2011年以降持ち直してきた後、最近は一服となつてきています。

【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m<sup>2</sup>



住宅投資については、持ち直しの動きに一服感がみられています。11月の新設住宅着工戸数は3か月振りに減少しました。2012年6～8月に前年（住宅エコポイント終了前の駆け込み需要等から大幅に増加）の裏要因から大幅に減少した後、9、10月はそうした裏要因が剥落しプラスに転化、11月はまたマイナスと、9月以降は一進一退の動きです。年初来では△6.3%となりました。なお、内訳をみると、持家は3か月連続の増加、その他（貸家・分譲）は2か月振りの減少と、相対的に持家の方がしっかりとした動きとなっています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】 前年比・%



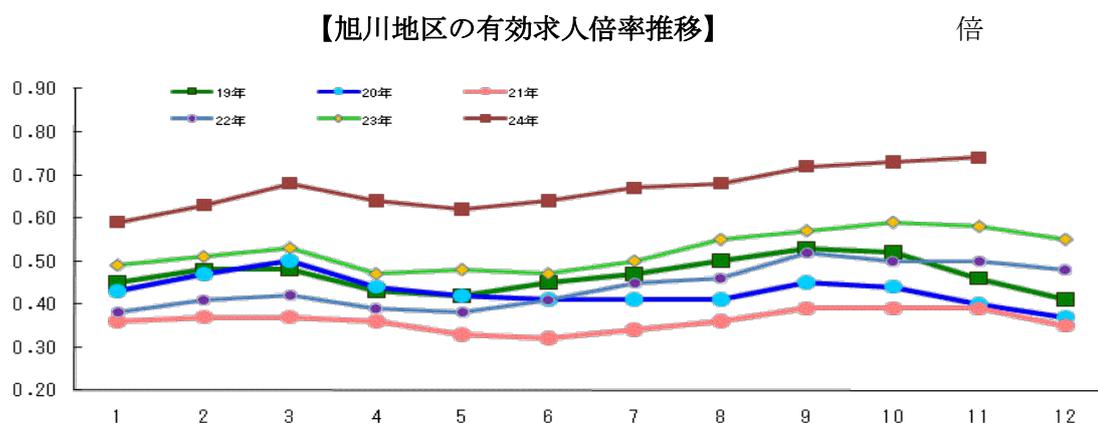
11月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は、ほっけおよび秋鮭が減少したことを主因に、数量（△26.4%）、金額（△36.0%）ともに減少しました。

製造業は、幾分弱めの動きとなっています。製材の生産は自動車等向け梱包材需要の減少等から9か月連続で減少しました。合板の生産は前月に引続き当月も既存製品の処理

のウエイトが高くなったことから微増となりました。紙・パルプは、雑種紙が増加したものの、印刷用紙が最終需要の低迷や輸入品との競合等から大幅に減少したため、全体では2か月連続で減少しました。電子部品関連は、新製品の作り込みの終了等から引続き減少しています（合板は10月、その他は11月計数に基づく）。

雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。11月の有効求人倍率は、北見地区は前年を下回ったものの、その他の3地区で前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。11月の旭川地区における常用新規求人数は+18.1%の増加となりました。業種別には建設（+79.4%）、運輸業、郵便業（+57.7%）、紹介・派遣、その他の事業サービス業（+78.9%）などで増加しました。労働需給面では改善の動きが続いているものの、求人・求職間の構造的なミスマッチ（たとえば11月の旭川地区の職業別有効求人倍率<パートを除く常用>をみると、一般事務員は0.22倍、ホームヘルパー・ケアワーカーは1.75倍）の存在（求人があっても新規雇用に結びつきにくい）や所得環境の厳しさ（国家公務員等で給与削減、道職員の冬季賞与は減少等）を勘案し解釈する必要があります。従来と変わりありません。



今年に入っても厳冬が続いています。JR北海道によれば、今シーズンの運休本数は1月15日現在ですでに昨年を上回ったとのこと。景気にとって、極端に異常な気象はマイナスですが、適度な寒さはむしろ望ましいものです。これから道北地域では旭川冬まつりや層雲峡氷瀑まつり、知床ファンタジア等冬のイベントが目白押しです。流氷もオホーツク海沿岸で早くも接岸しています。道北の冬の厳しくも美しい自然や、寒さを逆手にとった楽しいイベントを、国内外のできるだけ多くの人に楽しんでいただきたいと思います。と念願してやみません。

2013年1月23日  
荒木 光二郎